

目指す幼稚園像	明るく健康な幼児が育つ園づくり
---------	-----------------

重点目標	1. 幼児が主体的に遊べる幼稚園 2. 基本的な生活習慣が定着し、進んで行う子の育成 3. 家庭・地域に信頼される園づくり
------	---

達	A	ほぼ達成(8割以上)
成	B	概ね達成(6割以上)
度	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)
	E	よくわからない

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 1 0 日 現 在 )			
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
1	<p>・昨年度の経験があり、年中・年長組はサーキット遊びを楽しんでいるが、体を動かして遊ぶことに苦手意識をもつ子もいる。</p> <p>・新感染症の流行以来、中止している活動や行事があり、幼児の体験が不足している。</p>	<p>・保育内容の充実</p> <p>①健康な心と体 ②自立心 ③共同性</p> <p>①健康な心と体 ②自立心 ③共同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現</p>	<p>・引き続き、サーキット遊びを行う。設置方法や設置場所を検討し、継続して取り組んでいけるような環境設定を行う。</p> <p>・足拭きマットの共有を避けるために裸足での遊びを中止しているが、感染防止対策を検討して再開する。 ・保護者が参加する行事や、小学校との交流活動など、感染防止対策を行いながら再開できるように早めに計画を立てる。</p>	<p>・学級全体でのサーキット遊びを月2回以上実施できたか。 ・8割以上の子が、体を動かして遊ぶことに積極的に取り組めたか。</p> <p>・裸足での遊びを再開し、水や砂、泥の感触を楽しみながら遊ぶことができたか。 ・保護者参加や小学校と連携する行事を再開し、いろいろな人との関わりを経験することができたか。</p>	<p>・継続的にサーキット遊びを実施し、目標の回数はおおむね実施できた。 ・8割以上の幼児が、体を動かして遊ぶことに積極的に取り組めた。</p> <p>・感染防止対策を行いながら、裸足遊びを再開した。裸足での感触を味わい、遊びがダイナミックになった。 ・保護者参加の行事や小学校との交流を再開し、幼児の体験を増やすことができた。</p>	A	<p>・実施回数が少なくなってしまった学級もあったため、サーキット遊びの週間などを設け、継続して遊ぶ機会を意図的につくる。 ・戸外の遊具を使って環境構成を工夫し、サーキット遊びができるようにする。 ・園で所有する巧技台の数を増やし、様々なコース設定を行えるようにする。 ・中止が続いている園行事については再開するための方法を引き続き検討する。</p>	<p>・非日常的な動き(四つん這い、這い這い、後ろ向き歩き、など)が少ないので、そのような動きを幼児期にたくさん経験できるとよい。 ・研修や指導に来ていただいたりと大学とも交流・連携ができていますのは素晴らしい。 ・保護者の保育参加はぜひ全員の保護者に参加してほしい。1日に限らず、半日、2時間など短時間からでも参加しやすいようにしていく。 ・中止していた園行事が再開できているのはよいこと。今の子どもは季節の行事や伝統行事を経験していない子が多いので園や学校で伝統行事に</p>
2	<p>・食べることに興味がない幼児が増えている。</p> <p>・靴の左右を間違っただま履いたり、マジックテープをきちんと止めずに履いている子が多い。</p>	<p>①健康な心と体 ⑦自然との関わり・生命尊重</p> <p>①健康な心と体 ②自立心</p>	<p>・給食やお弁当の様子を保護者に知らせたり、実際に見てもらったりする機会をつくり、現状を伝えていく。 ・紙芝居や絵本など、食育の教材を活用していく。 ・野菜を育てる経験をすることで、食べることへの関心を育てる。</p> <p>・資料を配布するなどして、足に合った靴の選び方を保護者に伝えていく。 ・靴を正しく履いているか確認したり、履いた時にマジックテープを締め直すように繰り返し指導する。</p>	<p>・食べることに興味を見せる園児が増えたか。 ・苦手なメニューや食材にも挑戦する園児が増えたか。</p> <p>・5割以上の園児がマジックテープを締め直し、正しく靴を履けるようになったか。</p>	<p>・個人差はあるが、苦手なメニューや食材に挑戦する姿が見られ、間食できる幼児も増えてきた。 ・給食・弁当参観を実施し、園での食事の様子を保護者に見てもらうことができた。</p> <p>・靴を履く際、マジックテープを止め直すように声をかけ、5割近い幼児が正しく靴を履けるようになった。 ・足に合った靴の選び方について、保健だよりで保護者へ情報を伝えた。</p>	B	<p>・講師を招き、園児に向けた食育指導を再開する。また、給食を作ってくれる人(生産者・給食センター)についてイメージがわくような取り組みを行う。 ・保護者が給食を試食できる機会を検討する。 ・野菜栽培への興味関心を高められるような栽培方法を検討する。</p> <p>・靴教育について、園内研修で職員間の共通理解を進める。 ・保護者には靴教育に関するさらに詳しい資料を配布する。</p>	<p>・保護者も子供と同じものしか食べていない。給食で様々な食材に触れ、食べることは生活を豊かにする。 ・食育も靴の教育も、教師や保護者への意識付けが大切である。</p>
3	<p>・幼稚園のホームページは保護者にとって見やすい環境になっていない。</p> <p>・未就園児のいる家庭への子育て支援策として「びよびよ広場」を開設しているが、利用者が少ない。</p>	<p>⑤社会生活との関わり</p>	<p>・園児の写真を多く掲載し、保護者が見てみたいと思えるようなホームページ作りをする。 ・QRコードを作成して配布し、幼稚園のホームページ閲覧につなげる。</p> <p>・在園児だけでなく、「びよびよ広場」について、地域に広く知ってもらえるようにPRの方法を工夫する。 ・電話予約を無くすことで、気軽に利用できるようにする。 ・アンケートを取るなどして、利用者のニーズに合った内容を企画する。</p>	<p>・園児の様子や園だよりなど、月に1回以上定期的に更新することができたか。 ・ホームページのQRコードを作成し、保護者に周知することができたか。</p> <p>・「びよびよ広場」の利用者が、一日平均10組以上いたか。</p>	<p>・幼稚園のホームページに、行事や日常の様子など、園児の写真を多く掲載し、月に1回以上、更新することができた。 ・ホームページのQRコードを作成し、保護者や地域住民が閲覧しやすいように、毎月の園だよりに掲載した。</p> <p>・乳児検診でチラシを配布したり、病院にポスターを掲示するなどPRを行った。 ・予約無しで「びよびよ広場」を利用できるようにしたことで、年度当初よりも利用者は増えたが、目標の利用人数には届かなかった。</p>	B	<p>・ホーム画面を幼稚園らしいデザインに変える。 ・幼稚園向けアプリの導入について検討する。</p> <p>・初めて見る人が分かりやすいように「びよびよ通信」の内容やホームページでの掲載方法を見直す。</p>	<p>・HPは閲覧数にこだわらず、宣伝していることの方に視点をあてる。 ・保護者だけでなく、一般の地域住民にも見てもらえるような工夫を。(地域の写真展に写真を出す、など) ・利用者数を増やすためには、今の時代「保護者」にウエイトを置き、保護者が喜ぶようなイベント(ネイル、ウォーキング、ベビーマッサージなど)を企画するとのいでは。親の座談会などを設定し、</p>